

熊野へ捧げる書巡礼

天

と

地

柏木白光
墨アート展



金山 秋男 (明治大学教授・国際熊野学会副理事)

～柏木白光氏の書の世界～

柏木白光氏は神霊との感応道交によって、手筆が自在に動く類稀なる書家である。
氏の書に、書の世界の常識を超えた鬼気迫る霊力を感じるのは、私だけではないだろう。
数年前、白光氏の郷里近くの宇佐八幡の神体山である御許山（おもとさん）を訪れた時のことである。
生来鈍感な私にも、山上で氏が書き始めるや、山のなにかが蠢（うごめ）き始めるのを、かすかに、
だが確かに感じられた。世に言霊（ことだま）や木霊（こだま）というものがあるというが、正に神霊宿る
山の万物のいのちとたましいが、氏のことば（歌）に顕現した瞬間であった。
思えば、人が今、ここに存在して、渾身込めて、一枚の紙面と対峙していること自体、世人の思議を
はるかに超えた営みではないか。白光氏の手筆は、その不思議さの起源にむけて動きを止めない。
むしろ、こう言おう。氏は天地（あめつち）の万象を一枚の書に定着する一刻一刻において、神仏と
出会う浄福感を心ゆくまで味わってきたに違いないと。
柏木白光氏の書は、一言で言えば、三界万霊への祈りである。（推薦文より抜粋）





「守・破・離」(しゅ・は・り)という言葉があります
ひとつの道を極める その過程を表す言葉で
「守」は その道の基礎や流儀をしっかりと身につけること
「破」は 他流を学ぶなど さらに修行を重ね自己の個性を見つけること
「離」は 自己の集大成とし 何物にもとらわれずに独自の境地をひらくこと

書家の家に生まれた三代目として「守」「破」は勿論のこと
長き歳月をついやし「離」の境地を求め
色彩感覚や絵画的な要素を取り込み
斬新な独自の表現を追求して参りました

太古から日本人にとって聖地であり続けてきた紀伊山地

そこには 熊野へつづく 6本の道

日本古来の神々の住む「伊勢路」
その昔 京の院や貴族の参詣ルートだった「紀伊路」
庶民や文人墨客が枯木灘を愛でながら歩いた「大辺路」
修行者を守る神々が住む「中辺路」
空海が開いた修験道の霊場 高野山とをむすぶ「小辺路」
仏教文化が栄えた奈良・吉野とを結ぶ「大峯奥駈道」

なにものにもとらわれることなく
太古から続く大地のささやきに耳を澄まし
太古から続く大地をなでる風に身をまかせ

柏木白光は 2009年より その聖地にて
5年の歳月をかけて作品を制作してまいりました

集大成ともいえる作品の数々を是非ご高覧いただければと存じます

* 会場の都合により、祝花などはお断りをさせていただきます。

会 期：2014年1月9日(木)～15日(水)

会 場：京王百貨店 新宿店6階 京王ギャラリー

開 場：10：00→20：00（最終日は16：00閉場）

<http://www.byakko.info>

天
と
地

墨
ア
ー
ト
展
柏
木
白
光

